

双月刊行有料宅配誌／編集兼発行人・中村公省

# 蒼蒼

NO. 90

2000.2.10

株式会社蒼蒼社／東京都町田市森野2-26-16

## インターネット中国情報 へのアクセス方法

合田 暁夫

(蒼蒼社編集部)

世界中から情報を手でできることがインターネットの醍醐味であるが、中国情報においても例外でなく、各種様々な情報が入手可能である。情報はホームページ(wwwページ)と電子メールで提供される。九八年から

中国でもYahoo!の中国版(雅虎中国 <http://cn.yahoo.com/>)などの検索サイトが登場し、以前に比べ見たいホームページにたどり着くことは容易になったが、初心者にとってはまだ慣れが必要である。本稿はこれからインターネットを使って中国情報に入手しようとする「インターネット初心者」を対象とした手引きである。

### (1) インターネットへの接続

インターネットに接続するためにはパソコン本体の他にモデムとブラウザが必要である。ブラウザとはホームページを表示させるためのソフトでInternet Explorer(インターネット・エクスプローラ)とNetscape Navigator(ネットスケープ・ナビゲータ)の二つが主流である。最近ではモデムが最初からついてくる機種がほとんどである。またブラウザについてもWindowsがインストールされている機種であればブラウザもインストールされている。そのためインターネットをするために特別にそろえる必要はない。

次にプロバイダーとの契約である。プロバイダーとはインターネットと、個々のパソコンをつなぐ仲介業であり、国内ではInfo-web、ASPI ネット、SOFTNET、海外ではAOLなどがそれである。入会方法には電話、ファックス、郵便、オンライン・サインアップがある。中でもオンライン・サインアップは買ったその日にすぐに使えるため利用する人が多い。また契約するには料金引き落としのためのクレジットカードが必要である。

プロバイダー選びのコツは、同一市内にアクセスポイントがある、料金形態が自分の利用頻度に照らしてリーズナブルである、の二点である。はプロバイダー料金の他に電話料金もかかるため、市外の場合には高つく。プロバイダーの料金形態には、利用した時間分だけ払う「従量制」と毎月もしくは年ごとに一定額を払う「定額制」、一定時間までは定額制でそれを超えるとは従量制になる「半従量制」の三種類がある。ヘビーユーザーには「定額制」、たまにしか利用しない人には「従量制」もしくはは

## 中国語の主要サーチエンジン〔 搜尋引 〕

### ( 1 ) 大陸の主要サーチエンジン

|                      |                                     |       |                 |
|----------------------|-------------------------------------|-------|-----------------|
| 搜狐                   | www.sohu.com.cn/                    | [D]   | 愛特信             |
| 天網中英文搜索引             | pccms.pku.edu.cn:8000               | [R]   | 北京大学計算機系統       |
| 好万維網                 | www.nihao.net/                      | [D]   | 好万維網            |
| 悠游Goyoyo!            | www.goyoyo.com.cn/                  | [R]   | 悠遊國際有限公司        |
| 常青藤                  | www.tonghua.com.cn/                 | [D]   | 長通飛華            |
| 司南                   | www.yippee.com.cn/                  | [D]   | 環境と発展研究所        |
| 国中網                  | www.cww.com/                        | [D]   | 国中網             |
| 中公網                  | www.cis.com.cn/                     | [R]   | 中公網信息技術与服務      |
| 中国導航                 | chinanavigator.com.cn/              | [D]   | 中国導航            |
| 華好網景                 | www.chinaok.com/                    | [D]   | 華好網景公司          |
| 搜索客                  | www.cseek.com/                      | [D,R] | ChinaByte       |
| 中文搜尋引                | www.searchchina.com/                | [D]   | searchchina     |
| 網易                   | www.163.com/                        | [D,R] | 廣州網易公司          |
| 広州視窓                 | www.gznet.com/                      | [D]   | 広州市電信局          |
| 中国經濟信息网              | www.cei.gov.cn/                     | [D]   | 国家信息中心          |
| 中国虹橋網                | www.bridge.net.cn/                  | [D]   | 北京太陽海数据通信       |
| 新浪網                  | home.sina.com.cn/                   | [D]   | 四通利方公司          |
| 中国黄頁                 | www.chinapages.com/                 | [D]   | 中国黄頁            |
| 看中国                  | search.readchina.com/               | [D]   | 瑞得集团            |
| 若比隣                  | www.robot.com.cn/                   | [D]   | 中国互聯網絡信息中心      |
| 欧姆龍                  | www.omron.online.sh.cn/             | [D]   | 上海欧姆龍計算機        |
| 這是中国                 | www.tichina.com/                    | [D]   | Rui Ray's World |
| 万博網景                 | www.wbonline.net.cn/                | [D]   | 中国万博網景          |
| 北極星                  | www.beijixing.com.cn/               | [D]   | 万形数据集团公司        |
| 十大著名檢索工<br>具和站点 (広州) | 203.207.178.12/ navigato<br>r-a.htm | [D]   | 中經網広州中心         |

### ( 2 ) 香港の主要サーチエンジン

|              |                                  |     |          |
|--------------|----------------------------------|-----|----------|
| 茉莉之窓         | www.jansers.org/cwebsgb.<br>html | [R] | 香港中文大学設計 |
| 添達           | www.hksrch.com/                  | [D] | Timway   |
| where        | www.gowhere.com.hk/              | [D] | Gowhere  |
| Asiaseek搜尋網站 | www.golobepage.com/              | [D] | 香港世頁     |

### ( 3 ) 台湾の主要サーチエンジン

|          |                      |       |              |
|----------|----------------------|-------|--------------|
| Openfind | www.openfind.com.tw/ | [D,R] | 網 資訊公司       |
| 蕃薯藤      | www.yam.org.tw/      | [D,R] | 開拓文教基金会      |
| 奇摩       | www.kino.com.tw/     | [D]   | 精誠公司         |
| Todo     | www.todo.com.tw/     | [R]   | PC home line |
| 發現者搜尋家   | www.ifound.net.tw/   | [D]   | 快易專業網路工作室    |
| 華揚       | server.onweb.com.tw/ | [D]   | 華揚國際網路事業群    |
| 哇塞! 中文網  | www.whatsite.com/    | [D,R] | WhatSite Co. |

### ( 4 ) その他主要サーチエンジン

|        |                     |       |          |
|--------|---------------------|-------|----------|
| 雅虎中文   | cn.yahoo.com/       | [D,R] | 大陸、台湾、香港 |
| Excite | chinese.excite.com/ | [R]   | 大陸、台湾、香港 |
| 亜州網路   | www.asiannet.com/   | [D]   | 大陸、台湾、香港 |

注:URL アドレスのhttp:// は省略。[D]はディレクトリー型、[R] はロボット型。右端は所有者・管理者。

「半従量制」が向いている。つながりやすいことも条件の一つではあるが、これは実際につないでみるか、利用している人の話を参考にするほかない。これらの中から利用頻度に合わせ適当なものを選べばよい。

一方、中国でインターネットに接続するためにはプロバイダー選びをする必要がある。中国のプロバイダーにはいくつがあるが、よく利用されているの「Chinanet（中国電信）とEastnet（東方網景）がある。Chinanetは専用の国際回線を持つ一次プロバイダー、EastnetはChinanetは二次プロバイダーである。

両者を比較してみると、料金は一時間四元程度とほぼ変わらないが、Chinanetの方が国際回線を持っているためEastnetに比べ接続が比較的速い。料金の支払いは日本と違いクレジットカードが必要というわけではなく、銀行で払い込み、自動引き落としが可能であるほか、インターネットカードを利用することもできる。インターネットカードは前もって一定時間の料金を支払う料金前払いのカードで、カードを使い

切つたら新たに購入する。目安として100元のカードで50時間あまり使用可能である。

中国の電話には一般電話の他に201電話というものがある。大学の留学生宿舎などは201電話がほとんどである。201電話の場合、一般電話と違い、「201カード」という料金前払いのカードを利用する。電話会社に料金を支払つ必要がないため手軽に利用できるが、インターネットをする際の設定が少し面倒である。201カードにはユーザーIDとパスワードが記入されている。電話を使うときにこの番号を入力するが、ダイヤルアップ接続する際のダイヤル先にもこの番号を設定する必要がある。番号には共通番号「2011」と「1」もしくは「2」、ユーザーID（10桁）、パスワード（6桁）、プロバイダーの電話番号がある。これらの番号をカンマで区切る。例えば、ユーザーIDが1234567890、パスワードが111111だとするよ「2011, 1(0r2), 1234567890#, 111111#, 60001234#」という具合である。その他の設定は、日本で利用す

ると大差はない。もちろん一般電話の場合ではこの設定は必要ない。

## (2) ホームページの検索方法

中国関連ホームページを探すには検索サイトを利用するのが一番効率が良い。

検索サイトには「国内ではYahoo!」<http://www.yahoo.co.jp/>、「Infoseek」<http://www.infoseek.co.jp/>、「あなげのNAVI」<http://www.acara.co.jp/>、goo <http://www.goo.ne.jp/> などがある。大陸のものでは「Yahoo! 中国版」<http://cn.yahoo.com/>、「搜狐」<http://www.sohu.com.cn/> などがある。

検索方法はディレクトリ検索とキーワード検索が一般的である。ディレクトリ検索はいくつかのカテゴリの中から目的のジャンルを選択、クリックし、またその下のサブカテゴリをクリックしながら順繰りに階層をたどり目的のページを探す方法である。「Yahoo!」では「地域情報」の「世界の国と地域」をクリック、「中華人民共和国」を選択すると、中国関連のホームページをみることが出来る。キーワード検索はキーワー

ドを入力し、タイトル・URL・コメントからキーワードを含んだページを探し出す方法である。複数キーワードでの検索も可能で、「旅行 上海」のように入力し上海の旅行情報を得たり（*and* 検索）、北京もしくは上海というように、そのうちのいずれかを含んでいるものを検索することもできる（*or* 検索）。キーワード検索で「中国」と入力すると広島など日本の中国地方の情報も検索されるのでAND検索やOR検索をうまく利用するのがコツである。

「Yahoo! 中国版」「搜狐」も検索方法は同様であるが、「Yahoo! 中国版」でキーワード検索、例えば「中国经济」と入力すると、「中国」と「経済」が別々に検索されたりと、的確に検索できないことも多い。また、日本語（ソフトJISコード）で文字を入力すると文字化けしてしまったため、中国語（GBもしくはBIG5コード）をインストールする必要がある。ホームページには関連サイトへリンクが張られている場合が多いので、それを有効に利用し、頻繁にアクセスするホームページは「お気に入り」（Internet

Explorer）に入れておくと便利である。

### (3) ホームページの見方

#### 【ホームページ】

中国関連のホームページは大陸、香港はもとよりアメリカ、フランス、ドイツと様々な国から発信されている。日本においても例外でなく、企業・個人を問わず中国に関心を持つチャイナ・ウオッチャーたちがビジネスに関するもの、旅行に関するもの、食に関するものなど多種多様な情報を提供している。またこれらの情報を総合的に扱っているホームページもある。

ビジネスに関しては企業発信が中心であるが、宣伝だけでなく対中交渉の仕方や株価情報などビジネスに役立つ情報も提供されている。また、最新のホテル情報やレストラン情報など駐在員ならではの現地レポートも掲載されている。

「外務省」<http://www.mofa.go.jp/mofaj/index.html> や「日中経済協会」<http://www.jc-web.or.jp/> 「JETRO」<http://www.jetro.go.jp/top-j/index.html> 「大阪府

日中友好協会」<http://yousworld.com/nichu.htm> 「アジア経済研究所」<http://www.ide.go.jp/japanese/index4.html> などの機関・団体も中国関連の情報を提供しており、これらの最新レポートもインターネットで入手可能である。

#### 【メールリンク・リスト】

現地の情報を素早く入手するためにはメールリンク・リストが有益である。メールリンク・リストとは同好の者同士がインターネット上で情報のやり取りをする場で、管理者を通してメールで送られてくる。主なものでは「チャイナクロストーク」<http://www.sinophile.ne.jp/~oct/> 「チャイナ・メールリンクリスト」<http://www2.gol.com/users/tisi/china.html> など中国全般について情報交換できるサイトから、留学に関する情報を提供する「北京留学生通信メールリンクリスト」<http://www10.big.or.jp/~shun/bfc/en.html>、中国史について意見交換をする「中国史メールリンクリスト」<http://www2g.biglobe.ne.jp/~stakasa/china/chinist#ML/chinist#ML-j.html> など、話題

は政治、経済、歴史、文化等多岐にわたる。

#### 【ニュース配信サービス】

ニュース配信サービスも利用価値が高い。

「日中情報ネットワークニュース」<http://www.ask.ne.jp/~jcin/index.html>、「華声和語」<http://www.come.or.jp/> は日本の報道機関の中国関連ニュースをまとめたものや特集記事、広告が、購読を申し込むとメールで配信されてくる。これらのサービスは基本的に無料なので、とりあえず入会し必要とあれば継続すると良い。

#### (4) 中国大陸のホームページ

中国大陸のホームページはどうか。

中国大陸のホームページは当然のことながら中国語である。日本語環境で中国語を表示するには中国語のフォントを入手する必要がある。中国語のコードには Big5 (繁体字)・GB (簡体字) があり、Internet Explorer のホームページや Chinese Writer や Cinn (つんぬ) などの中国語処理ソフトを利用することで表示可能である。

情報源として頻繁に利用するのは新聞サイ

トである。う。「人民日報」<http://www.peopledaily.com.cn/> をはじめとして「新華通訊社」<http://www.xinhua.org/>、「経済日報」<http://cw.com/news/jrb.html>、「解放日報」<http://www.jfdaily.com.cn/> など中国の主要新聞・通信社のほとんどがインターネットホームページを設けている。どのサイトも新聞発行当日に更新されるため、日本にいても時間的制約は受けない。さらに記事はデータベース化され一定期間保存されているため、過去の記事の閲覧も可能である。また新聞サイトのほとんどで特集欄が設けてあり、中国の最新のトピックを記事にしてまとめている。紙面からは得られない有益な情報が入手できることも多い。最近では地方紙も次々とホームページを立ち上げており、いままでは購読できなかった新聞も主要紙同様に読むことが可能になった。

ニュース関連サイトには新聞以外に「中国国際互聯網絡新聞中心」[http://www.china.org.cn](http://www.china.org.cn/) など、インターネット上でのみ存在するニュースサイトがある。こ

れらは「新華通信社」や「人民日報」などの記事を寄せ集めたもので、手っとり早く各紙の主要記事を読みたい場合お勧めである。また網景 <http://www.yeah.net/>、新浪網 <http://home.sina.com.cn/> など、主なサーチエンジンのトップページにもニュースの紹介があるので、検索のついでにざっと目を通せる。

政治関連の情報を得るには、政府機関のホームページに直接アクセスすると良い。九九年二月より「政府上網工程」が実施され、中国の政府機関のホームページも徐々に充実してきている。「外交部」<http://www.fmprc.gov.cn/>、「情報産業部」<http://www.mi.gov.cn/>、「対外貿易経済合作部」<http://www.mofec.gov.cn/> など数十もの政府機関が政策や法律、法規、統計に関する情報を提供している。

経済・ビジネス関係のホームページも数多くあり、国内外の経済ニュース、企業情報、業界ニュースなどを提供している。国家情報センターが開設している「中国経済信息网(中経網)」<http://www.cei.gov.cn/> も

その一つで、各地方省市の経済情報センターとリンクさせ一大ネットワークを形成している。また中国の企業紹介や産品・技術紹介を提供しているサイトもあり、インターネット上で交易会も開かれている。今後、電子商取引が本格化することによって動きはさらに活発になるであろう。

この数年の間に中国のインターネット事情は様変わりした。特に経済、ビジネスに関するホームページの充実ぶりは目を見張る。チャイナ・ウオッチャーの情報源としてようやく使用に耐えうる所まできている。インターネットは書籍と違い、低コスト、短期間で大幅な更新が可能である。わずかの間に大きく変貌したホームページを筆者は数多く目の当たりにしている。情報化社会といわれている今日、いつまでも古い情報にしがみついているのは、中国情勢を把握することは難しい。本稿がこれからインターネットで中国情報の入手を試みる読者の一助になれば幸いである。(『中国情報源』二〇〇〇―二〇〇一年版、2000年1月刊行、本体3000円、より抜粋)



中国的なるものを考える

## 伝播と速度 その三

福本勝清

(明治大学教授)

ある種の社会運動の伝播には、その運動なりの速度がある。実のところ、それがこのタイトルの言わんとするところなのである。

おそらく誰もが思いつくように、学生運動はもつとも急速に波及する。たとえば、一九三五年一月九日に北平(北京)で勃発した抗日学生運動「一二・九」運動は、ほぼ一月月の間に全国の主要都市を席卷し、北平に続けとばかりに、各地で大学生、高中生を中心とした抗日デモンストレーションが行なわれた。その伝播の最大の媒体は、上海で発行されていた雑誌『大衆生活』(半月刊)であり、各新聞が検閲のなか思つように報道できなかったにもかかわらず、同誌は北平の抗日デ

モの様子をグラフィア入りで報じ、学生や知識人に鮮烈な抗日へのメッセージを送り続けた。

そのようなマス・メディアによる伝播以外にも、運動は様々なチャネルを通じて広がっていった。たとえば天津では、北平各校に進学した学生たちが、次々と母校の同学や友人に手紙を書き、運動への参加を呼びかけた。また、楊秀峰、温健公といった左翼教授たちも、北平、天津の両方で教えていることを利用し、北平の運動の様子を天津の学生たちに伝え、学生たちの組織化を促した。つまり、彼らは鉄道を使って北平、天津両都市の間を行き来し、運動の波及をはかっていたのである。

一月一六日、北平における第二波の抗日デモンストレーションの翌日、北平学聯を代表し、陳翰伯、韋毓梅、陳元の三人は上海に到着。もちろん鉄道を使ったのである。上海における抗日派知識人に面識のなかった彼らは、『大衆生活』編集部に直接電話を入れ、編集者鄒韜奮に英語で北平の三人の学生が「一二九」の報告に来たこと

を告げ、そこから鄒韜奮を含めた上海救国会運動を代表する指導者の面々に会うことができた。彼らは鄒韜奮の案内で各校を訪れ、運動の報告をするともに、上海の学生たちに抗日学生運動への決起を呼びかけた。

一月九日の数日後、武漢大学工学院(工学部)に学ぶ李厚生(李銳)のもとに、高時代(湖南嶽雲中学)の同学で輔仁大学に学んでいる文立徴から手紙が届く。文面には、北平の抗日デモの様子が詳しく書かれてあった。李厚生はそれを書き写し、大字報として校内に貼り出した。かつ、その下にナイフを置いて、「これを破るものは漢奸(売国奴)とみなす」と書いておいた。湖南長沙の小学校の教員であった蘇鏡のもとにも、中学時代の友人であり、北平師範大学に学ぶ鄧文恵から、「一二・九」の様子を伝える長い手紙が届いた。彼女はそれを自分が参加していた読書会の仲間に見せ、さらにそれを長沙『大公報』社に送りつけた。『大公報』はただちにその手紙を掲載し、長沙の青年学生に衝撃を与えたという。

同じ民国期(中国近代)の社会運動、もし

くは大衆運動とはいえず、このような学生運動が、紅槍会、大刀会に代表される紅槍会運動とは大きく違うことがわかる。伝播の速度がまるで違うが、それは伝播の媒体の違いに等しい。新聞、雑誌、あるいは知識人間の手紙といったものは、書き言葉の世界に属する。つまりそれぞれが日常話している話し言葉、方言の違いによつて伝播が阻害されることはない世界での出来事なのである。また、鉄道、郵便、電話、電報といった近代的な交通手段や通信手段の利用も当然のごとく行なわれている（この時期、各地の学生団体が電報を發して抗日学生運動への連帯を表明したり、南京政府に通電し一刻も早く抗日に打つて出ることを請願するものが、ごく普通の戦術やスタイルとして試みられた）。

学生運動が、このような書き言葉の世界に属するメンバーを主体に、都市間交通あるいは近代的な交通手段や通信手段を用いて広がりを見せたのに対し、紅槍会運動はまるでその逆を行っていたことはすでに述べた。民国期最大の民衆運動であった紅槍

会運動は、当然にも個々の方言圏の枠を越えて広がったが、それは相互に隣接する方言圏を繋ぐようにして広がったのであり、方言を無視して広がったのではなかった。運動の主体は農民であり、彼らは運動の波及を徒歩もしくは船（クリーク地帯では船が伝統的な交通手段であった）で行なつたのであり、伝播の手段として鉄道や長距離バスを使つたり、電信電話や郵便を使つたりすることは、まったくないとは言いきれないが、一般的には想定しにくいところである。

このような学生運動と紅槍会運動との間に労働運動と農民運動が存在する。労働運動はどちらかといえば学生運動に近いが、文字を知らない広汎な大衆を含むがぎり農民運動とも共通している。農民運動は紅槍会運動と共通する部分が多いが、それが左翼に指導されているかぎり、労働運動とも共通面を持つだろう。学生運動、労働運動、農民運動、紅槍会運動は、社会運動の伝播と速度の面から考えると、それぞれ特色あるスペクトルをなしており、伝播の媒体が書

き言葉であるか、話し言葉であるか、近代的交通手段や通信手段を利用するか、伝統的なものを利用するか、都市間コミュニケーションか農村間コミュニケーションか、といった指標によつて、それぞれ特徴づけることができる。

社会運動の伝播と速度の関わりをより詳しく知るためには、各大衆運動の、指導者（教祖）と活動家（布教師）の関係、及び活動家（布教師）と大衆（一般信者）の関係を、それぞれ分けて考える必要がある。

学生運動では、指導者と活動家の関わりにおいても、活動家と大衆の関わりにおいても、いずれも話し言葉を媒体とし、都市間コミュニケーションを利用して点で同質であり、そこに他の社会運動に対し際立った違いがある。各大学は、現在ほどではないにしても、一応共通語でそれなりに授業を行なっていた。もしそうでなければ、上海のような多くの大学を抱える都市は、それぞれ方言の異なる地方から大量の学生たちを迎え入れることはできなかったであろう。また、そこに集まつた学生たちは当初は



出身地ごとにつきあつていても、その枠を越えてつきあうことも容易であり、ことに愛国とか抗日といった課題において、出身地の枠が運動の阻害要因となることなど考えられなかった。

労働運動では指導者と活動家の間では、基本的には書き言葉と都市間コミュニケーションを用いていたと思われる。だが、活動家の間にも文字の読めない者や読めても書けない者があり、書き言葉や都市間コミュニケーションだけでは完結できなかったであろう。また、活動家と大衆の関わりにおいては、都市労働者といえども文字の読めないものが多数を占めており、一般的には伝播は話し言葉を媒体にしたり、身体的なコミュニケーションを用いて行われたと思われるが、運動に關心を持つような若い労働者は、運動のなかで、もしくはその影響下で文字を覚える可能性が高かったと思われる、書き言葉もその宣伝手段としては無視していいわけではなかった。

(余計なことかもしれないが、もはや死語になりつつある左翼運動論の立場から言わせ

てもらつと、文字が読めないとか文章が書けないといつても、左翼的な理念とは書き言葉そのものであり左翼運動自体が書き言葉の世界に属している以上、文字を知る知らないに関わらず、運動への意識的参加者が書き言葉の世界に属する論理を駆使することは可能である。)

農民運動は労働運動よりもさらに話し言葉や身体的なコミュニケーションを媒体にする度合いが高く、近代的な交通・通信手段より伝統的なものを利用する可能性が大きい。指導者と活動家の関わりにおいても、労働運動よりもはるかに大きな比重が話し言葉の世界にかかっている。だが、たとえば、大革命期に、全国各地の農村の若い知識人たちが広州農民運動講習所に赴き、そこで農民運動を学んだように、指導者レベルではやはり書き言葉の世界の優位が認められる。また彼らは、近代的な交通手段や通信手段に対しても違和感を持つていなかったであろう。それに対し、活動家や農民大衆の関わりにおいては、話し言葉や身体的コミュニケーションがほぼ唯一の媒体

であったといつてよい。

紅槍会運動においては、さらに話し言葉、農村のコミュニケーションへの比重が増す。教祖と布教師の関わりにおいても、書き言葉や都市間コミュニケーションは影が薄い。豫北(河南省北部)天門会の創始者韓欲明とその追隨者の関係においても、追隨者の多くが農村の有力者であり、文字を操ることが出来る人々であったにもかかわらず、教祖と布教師の関係は伝統的なもの、農民的なものであった。そこでは御告げ、符呪、法術といった秘儀的行為や武術の鍛錬といった、伝統的もしくは身体的コミュニケーションを通して連帯の強化をはかっていた。そしてそれらは、文字を知る人々、たとえば儒家とか近代的な知識人が軽蔑してやまない迷信でしかなかった。新旧の書き言葉の世界(儒家とマルクス主義)の大伝統に対し、呪術的、シャーマニズム的な小伝統がはばをきかしていた。当然、布教師と一般信徒の関係はさらに伝統的、農民的なものであった。

逆耳順耳

矢吹 晋

## 人民元切下げ騒動から 朱鎔基辞任憶測まで

私は一九九八年春に出版した『図説・中国の経済（第二版）』（蒼蒼社、一九九八年二月一八日刊行）で「中国経済についての七つの虚像」として、以下の七つのトピックに即して、チャイナ・バッシング・ムードを批判した。すなわち、中国崩壊論、中国脅威論、食糧危機論、資源危機論（あるいは環境危機論）、中国経済バブル論、カントリ・リスク論、「中国発の通貨危機論」である（同書、序章）。

その後約二年、百鬼夜行のごとく横行したの「切下げ必至」論ばかりであり、これを批判する論調が日の目を見ることはなかった。興味をもたれる読者は、この間の新

聞・雑誌の論調を点検してほしい。ほとんど常軌を逸していると評したい惨状に気づかれるであろう。

一九九八～一九九九年に私が書いたり話したりした「人民元切下げ」論批判のうち、いま私のホームページに記録のあるものを挙げておきたい。まず講演やテレビでは、「切下げ説」の誤りを以下のように論じた。

- (1) 「人民元、切り下げはない」（日本工業倶楽部木曜講演会、九八年三月二六日）
- (2) 『最近の中国情勢』（国際関係基礎研究所講演、九八年七月七日）
- (3) 「激動の世界経済・中国篇」NHK衛星第一放送（一九九九年一月二日放映）
- (4) 『最近の中国情勢』（国際関係基礎研究所講演、九九年一月一九日）
- (5) 「中国経済は大丈夫か」（経済倶楽部講演、東洋経済新報社、九九年三月二六日）
- (6) 『最近の中国情勢』（国際関係基礎研究所講演、九九年七月八日）
- (7) 「激動の世界経済・中国篇」NHK衛星

星第一放送（二〇〇〇年一月二日放映）  
書いたものは、

- (1) 「朱鎔基、大胆不敵なバブル退治」（『文藝春秋』九八年六月号）
- (2) 「中国・人民元問題の論評」（『信濃毎日新聞』九八年八月二七日付）
- (3) 「朱鎔基政権に不安なし」（『文藝春秋』編、日本の論点2000、九九年一月一〇日）などである。

これらの分析において、私は繰り返し切下げ論は、オオカミ少年の戯言に等しいと語ってきた。見通しの成否は明らかである。一九九八～一九九九年を通じて、人民元の切下げはなかったし、「中国発の世界恐慌」なる妖怪も、日本の大マスコミを闊歩するだけで、オオカミ少年のたわごとを出ることはなかった。だが、「切下げ願望」にとり憑かれたかのような論者は、依然その見通しの誤りを訂正せず、ますますそれに固執しているようだ。

一例をあげよう。「世界経済に歯止め役が不在のまま、元切下げとなれば、中国発世界

恐慌」というシナリオが現実になる可能性はゼロとはいえない」（『日本の論点2000』一九九九年一月一〇日、一五一ページ）。経済の話をして「可能性はゼロとはいえない」という日本語を書く書き手の言語感覚を私は疑う。経済学のような社会科学の分野では、繰り返して行われる大量の市場取引の結果として何が起こるかを研究対象としている。そこでは現実の経済的帰結が肝心だ。そこでは「可能性がゼロとはいえない」という低い確率の事例は無視してよい。これが常識である。為替レート問題のような経済学の知識を要する話が、あたかも「晴れたらよいね」の天気話のように語られ、有象無象が「切下げ必至」と病にとりつかれた状況は、まことに異様、世紀末を飾るに相応しい珍現象であった。その可能性がほとんど消えたことを示す統計数字が報じられているなかで、依然として「切下げの恐怖（あるいは願望?）」にとらわれている姿は、パラノイアというほかない。杞憂そのものであり、健全な判断能力とはみなしがたい。その種の論評が絶えないのは、なぜか。

私は最近になってようやく気づいたのだが、これらの論者は、中国経済の現実を論じているかに見えて、実はそうではないという真実がいまようやく明らかになりつつある。彼らは漠然とした不安にとり憑かれて、虚ろな眼で「幻想・妄想のなかの中国経済」を見ているだけなのだ。これらの患者たちは、自らの病を自覚できないから始末が悪い。日本バブルがはじけて、かくも長い不況が続いた結果、極端な自信喪失に陥り、神経症に陥っているにすぎないのである。いまこそ冷めた眼で中国の現実を直視すべきである。世紀末に際して、いま私は現代中国史の二つの奇跡の意味を反芻している。

一つは、鄧小平が文化大革命期を生き延びて、毛沢東路線を一八〇度転換させることができた経緯である。もう一つは、市場経済の救世主、朱鎔基の復活と活躍の意味である。鄧小平の中央における出世の契機となった反右派闘争の犠牲者として、朱鎔基はおよそ二〇年間ほされながら、市場経済化への流れのなかで見事に宰相の地位ま

で登り詰めた。後から振り返ると、これは名宰相を鍛えるために、あえて課した歴史の試験かと思えるほどである。

むろん、そうではあるまい。脱計画経済の舵取りがあまりにも困難な課題であるため、それを担うリーダーとして朱鎔基の辣腕が見出され、周囲の伯樂たちによって引き上げられ、かつ朱鎔基の周囲に同じ危機感をもつ俊英たちが集まり、支えてきたと見るべきであろう。

中国は人口大国であり、歴史大国である。だが誤解を恐れずにあえていえば、時に（たとえば文革期のように）烏合の衆、カオスになる。この種の国家危急時に際しては、「羊を導く山羊」が必要である。朱鎔基はそのような役割を果たす「带头羊」に選ばれたわけだ。幾度かの「生贄の山羊」の危険を乗り越えて、いまや確かな舵取り役を演じている。高齢にもかかわらず宰相に選ばれた朱鎔基は、就任一年目の九八年に国有企業のリストラへの大号令をかけ、中央政府の役人の数を半減させた。これらの大手術はアジア通貨危機のさなか、GDP成長率が7%台、

すなわち雇用創出の小さいなかで行われた。朱鎔基にとって改革への抵抗は、いちおうは折込み済みではあったが、怨嗟の声は巷にあふれ、その風圧は朱鎔基自身を時にたじろがせるほどの大きさであった。

朱鎔基がアメリカ・カナダ訪問から帰国したのは四月二一日である。江沢民が四川省を五日間視察したのち、成都市で国有企业改革の座談会を開いたのは翌二二日である（江沢民の国有企业座談会は、五月三〇日武漢、六月一七日青島、八月二二日大連とづく）。この時間的経緯から推測できるのは、江沢民が国有企业問題を國務院レベルではなく、党中央レベルの問題として扱う方針の決定が朱鎔基訪米の前に行われた事実である。朱鎔基の訪米交渉の成否と江沢民の国有企业改革への「介入」には、因果関係はなく、訪米前の時点で、四中全会へ向けた「一歩後退、一歩前進」の戦略は構想されていたと見るべきである。

朱鎔基の訪米は、アメリカ社会に朱鎔基という「新しい顔」を売り込む点では成功したが、WTO交渉がまとまらなかった点で

は失敗に終わった。単に交渉が妥結できなかったばかりではなく、中国の大胆な譲歩案を米国側が一方的に公表したことによって、朱鎔基の「失策」が印象づけられた。だが、これは果たして朱鎔基のミスなのか。妥結を想定して提起した譲歩案を土壇場で蹴り、しかもその譲歩案を一方的に公開してみせたクリントン大統領のやり方は、ほとんど信義に悖るやり方である。クリントン大統領はこのような形で朱鎔基の頬をひとつなぐる形で借りを作った（クリントン大統領は半年後に猫の首に鈴を結んだ者が鈴を外す、作業に取り組む）。さらに、朱鎔基が帰国してまもなく九九年五月八日にユーゴの中国大使館が誤爆され、三名が死んだ。中国の学生たちは激昂し、北京の米国大使館に投石の嵐を浴びせた。燃え上がった中国ナショナリズムの攻撃対象は、当初の米国当局からまもなく、そのように野蛮かつ無礼なふるまいをする「米国に媚態を売った」朱鎔基の「屈辱外交」「売国外交」批判へすり替えられた。

六月中旬、朱鎔基への風圧はピークに達

した。六月一八日全国教育工作会议閉幕式を主持した朱鎔基は、ぶり返した腰痛の治療をかねて、浙江省杭州に静養にかけた。この間、六月二三日東京で開催された二一世紀委員会に祝電を送り、二五日には国内の「全国部分省区勘界工作会议」に書面の指示を送っただけである。これは本人がいなくとも秘書だけでできる仕事だ。一九日から二七日までの九日間の休暇中に、国内で「朱鎔基、辞任か」のウワサが広まった。成行きに驚いて急遽帰京した朱鎔基は六月二八日パキスタン・シャリフ首相と会見し、健在を示した。しかし国内のウワサがますます香港に飛び火した。英字紙『サウスチャイナ・モーニングポスト』（六月三〇日付）が辞任騒動を報じた。即日、香港やジャカルタの株式市場が下落し、翌七月一日には辞任情報逆輸入され、上海B株は七・九%も大幅下落した。ロイター六月三〇日（東京時間二一時すぎ北京発）がアメリカに向けて、「アジア株下落」を伝え、これを契機に、『ウォールストリートジャーナル』七月二日付が辞任騒動を報道した。

一方、七月一日国防科技工業一〇大集団公司の成立大会が開かれ、朱鎔基は重要講話を行った。このニュースは朱鎔基の国有企業改革、とりわけ解放軍側の反発も予想される軍事工業関連部門の改革が朱鎔基のプログラム通りに進展していることを示唆するものであった。中国当局はこのニュースを流すことにより、朱鎔基辞任の風評を沈静化しようとしたものとみてよい。

『ウォールストリートジャーナル』の報道に接して、あわてて問い合わせてきた知人に、私はこう説明した。「死してのち已む」と大見得を切った朱鎔基に「辞任」なる語彙はなさそうですね」と。現実の朱鎔基辞任騒動はここで一件落着である。しかし、北京駐在のジャーナリストたちにとつての辞任騒動はここから始まり、一月中旬まで続いた。その後遺症は年が明けてからも続いている。いわく中央財經領導小組組長が朱鎔基から江沢民に代わったのは、朱鎔基の格下げではないか。朱鎔基は国有企業担当から外された、これは失脚寸前、などなどである。私の見る限り、中央財經領導小組組長は当初から江沢民

であり、朱鎔基は副組長のはずである。これを根拠に地位の低下、あるいは降格を語るのには単なる憶測である。國務院官僚群を半減する大リストラや国有企業の大胆なりストラが、折からの成長率低迷のもとで強行され広範な反発を招いたために、朱鎔基が矢面から離れ、江沢民・呉邦国が全面に出て九月の四中全会決議をまとめたのは事実である。しかし、呉邦国はもとも国有企業担当であり、また朱鎔基の問題提起をうけて、江沢民がトップとして全面に立つのも、集団指導体制のもとでおかしくはない。三力年で大型企業を赤字から脱却させる「目標が否定され、二〇一〇年まで延期された」と日本各紙が書き立てた憶測は、根拠薄弱である。二〇〇〇年までに大型企業にメドをつける話と、二〇一〇年までに国有企業全体の再編成を行う話とは、対象が異なるのだ。現に「二〇〇〇年目標」と「二〇一〇年目標」は併存している。

故意か無知か、真意は不明だが、この種の憶測のみが闊歩し、世のチャイナ・ウオッチャーたちがほとんど自縄自縛に陥ったの

は滑稽極まる成行きというほかない。二〇〇〇年一月七日、中共中央宣伝部、中央直屬機關工作委員會、中央國家機關工作委員會、解放軍總政治部、北京市委員會は北京人民大会堂で、情勢報告会を開き、朱鎔基が当面の經濟情勢を報告した。

九九年は一連のマクロ經濟政策措置により、年初に確定された經濟發展目標（七％）を実現した。国有企業の改革、赤字脱却には重要な進展があり、対外貿易輸出は大幅に回復した。財政収入が多く増加し、金融が安定的に運行し、人民元為替レートが安定し、外貨準備が増加した。全体的な經濟情勢は良い方向に發展している。

二〇〇〇年は世紀交替の一年であり、真面目に中央經濟工作會議の精神を貫かなければならない。すなわち内需を拡大、發展を促進するマクロ經濟政策をゆるぎなく執行し、積極的に輸出を拡大、外資を利用し、社会保障体系の建設を加速し、各方面の經濟業務を遂行しなければならない（なお会議には北京の党政軍機關、部級、司局級、幹部、首都新聞單位の「責任者、一部の省市区の党

委宣伝部長」など三三〇人以上が参加した。

中国はアジア通貨危機という嵐を乗り切ったとみてよい。中国経済の対外開放が「半開き」状態であったことが幸いしたことはいうまでもない。しかし、中国経済のグローバル化は不可避である。中国経済はいつまでも「半開き」状態にとどまることはできない。WTO加盟という大きな山を越えた朱鎔基にとって、当面の課題は中国経済のテイクオフであり、人民元のハードカレンシー化に象徴される中国経済の実力強化である。

私の分析は以上の通りである。この間、畏友村田忠禧教授が「朱鎔基、辞任」をキーワードとして検索してくれた。「朝日新聞」のオオカミ少年ぶりを資料として付記しておく。  
(1) 大国の影 元切り下げ現実味、アジア危機 二 再生の構図、九九年七月九日朝刊、鈴木暁彦記者

香港返還二周年を前にした六月三十日、香港と上海の株式市場は急落した。「朱鎔基首相が辞任する」とのうわさが原因だった。

推進している「改革」の遅れや世界貿易機関(WTO)加盟問題の難航が材料にされた

建国五十周年の十月一日まで上がり続けるだろう、という期待も広がってきたところだった。辞任説は憶測だったが、相場の揺れが今の中国の抱える不安を表している。「国有企業、金融制度、行政機構の三大改革」三年でめどをつける」という朱首相の昨年三月の就任公約に、あちこちでブレーキがかかり出したのだ。北京の外資系企業の間では再び、人民元切り下げが取りざたされ始めた。中国政府要人が「元の安定維持」を以前ほど口にしなくなったことも拍車をかけている。「元切り下げは、タイ経済に対する新たな時限爆弾だ」。タイの大手シンクタンクが最近、レポートを出した。「そうなれば、タイ製品は中国製品と激しい競争になるだろう」としている。大国の行方は、通貨危機から立ち直りつつある隣接諸国になお影を落とす。

【コメント】株の下落は六月三〇日、この新聞は日刊紙なのか。まさか週刊誌じゃあるまいに！

(2) 中国の朱鎔基首相が辞意？ 香港紙報道、九九年七月一日朝刊、永持裕紀記者

九日の香港主要紙は、株式市場で六月末に失脚説の流れた中国の朱鎔基首相について、「病気で静養した後、共産党中央に辞任を申し出ていた」(情報)などの観測を伝えた。首相の「うわさ」が乱れ飛ぶ背景には、首相の指揮する改革政策に対する中国内の強い抵抗があるとみられる。九日には小淵首相と会談した朱首相だが、四月の米国訪問後、その動きが伝えられない時期があった。「情報」によれば首相はこの時期、過労による体の不調のため、浙江省杭州市で十日間静養していた。辞任を申し出たが、江沢民国家主席が認めなかったという。

【コメント】(1)に同じ】  
(3) 朱首相の腹心辞任 経済事件に關与が 香港金融企業・光大グループ、九九年七月三一日朝刊、【香港三〇日】中村史郎】

中国政府直系の金融を中心とした香港企業、光大グループの朱小華会長が三十日、辞任した。同日付の香港各紙は経済事件に關与した疑いで既に北京に召還され、当局の

取り調べを受けていると伝えている。朱氏は朱鎔基首相のブレインの一人。中国の世界貿易機関(WTO)加盟問題などをめぐって朱首相の政治力が低下しているとされる中で、首相の今後に影響を与えそうだ。香港では数日前から朱氏が解任されるとの観測が流れていた。消息筋によると不正・腐敗根絶に号令をかける朱首相としては、朱氏をかばうことができなかったという。

(4)「熱血」中国・朱鎔基首相、逆風にひるむ? 一度は辞任決断、九九年八月一二日朝刊、中村史郎記者

中国の朱鎔基首相に逆風が吹いている。対米関係を最重視する外交路線への批判、看板の国有企業改革の行き詰まりに、気功集団「法輪功」への対応も党内で批判され、経済ブレインの更迭まで加わった。一時は失脚説も取りざたされたが、複数の消息筋によると、首相自身、一度は辞意を漏らした。江沢民国家主席との「江朱体制」にも微妙な影響を及ぼしている。踏みとどまった今は逆に健在ぶりをアピールしているが、「熱血宰相」の指導力低下は否めない。つまりすぎのものは四月

の訪米。最大の懸案だった世界貿易機関(WTO)加盟交渉について、大幅な譲歩を示しながら交渉をまとめきれず、市場開放に消極的な勢力の反発を買った。帰国後わずか二週間余りで起きた在ユーゴスラビア中国大使館被爆事件が追い打ちをかけた。親米路線と批判の標的となった。十月の建国五十周年まで二カ月を切り、安定最優先の今、首相が辞任に追い込まれるとの見方は少ない。保守派の抵抗を強引とも言える指導力で乗り切ってきた首相が指導力の限界を見せたのも確かだ。これまでと同じ影響力を発揮するのは難しい。

【コメント】オオカミ少年の軌道修正か  
(5)苦境の首相、知難而進 中国経済報告、九九年九月二日朝刊、鈴木暁彦記者  
朱鎔基首相は、言葉を選びながら発言した。「世界貿易機関(WTO)に加盟すれば、(国有企業改革を担当する)呉邦国同志の任務がさらに重くなる、ということとは十分理解している」WTO交渉責任者は(昨春以降)呉儀同志にお願ひしたが、だからといってこれまでの(前任者の)業績をない

がしろにしている、と思ひ込まないでほしい」呉邦国氏は副首相(工業担当)、呉儀氏は国務委員(対外経済担当、副首相と同格)。後の発言は、呉儀氏の前任の交渉責任者、李嵐清副首相に配慮したものだった。四月下旬、北京で開かれた共産党政治局会議の緊迫した一幕を、外交筋はこう伝える。【コメント】講釈師見て来たようなウソを言い  
【国家経済貿易委員会の鄭斯林副主任は八月三日の記者会見で、「国有企業の徹底的な改革には十年はかかる」と述べた。「三年の目標に自信はあるが」とも言ったが、実質的な先延ばしの表明だった。

【コメント】「三年目標」を「一〇年間先延ばし」説は、一頃隆盛をきわめた。今年はその三年目であるから、先延ばしされたかどうか、見極めることができるはず】

(6)江 朱コンビにほころび 堀江義人編集委員(コラム私の見方)、九九年九月三日朝刊

あとで調べると、朱氏は三月の全国人民代表大会(全人代)の政府活動報告以来、国有企業改革についてあまり発言せず、八月